

of anther.

b. Much variety was recognized in the numbers of stigma and corolla lobes.

## 文 献

- 1) 牧野富太郎: B. M. T. 18: 43 (1904). 2) 上原敬二: 樹木大図説 3: p. 935 (1959). 3) 牧野富太郎: 牧野新日本植物図鑑 p. 585 (1962). 4) 大井次三郎: 日本植物誌, 顕花篇 p. 1244 (1965). 5) 宮沢文吾: 観賞植物図説 p. 708 (1966). 6) 石川馨ら: 化学者および化学技術者のための統計的方法 p. 98, & 144 (1966).

□小倉 謙: **Comparative Anatomy of Vegetative Organs of the Pteridophytes.** B 5 版, 502 ページ, 1972, 西ドイツ (ベルリンとシュツットガルト) の Gebrüder Borntraeger 発行, DM 228. 形態学者として有名な東大名誉教授小倉博士は 1938 年に上記出版社の *Handbuch der Pflanzenanatomie* という双書の一冊としてドイツ文の「シダ植物栄養器官の比較解剖学」を出された。この双書は Linsbauer が創設し Pascher と Tischler に受けつがれたもので, 植物解剖学の指導的著作として有名である。戦後 Zimmermann ら 4 氏によって再建され, 細胞学や組織学の総論的なものと各分類群別のものなど 19 冊ほど出版されている。今回のそれはその一つで初版のもの改訂版となるわけで, 文章も英文に書き変えられた。30 余年間の解剖学の進歩に伴い発表された多くの研究成果が広く取り入れられている。シダ植物の最初の化石が陸生植物として現われて以来胞子体のからだけは非常な分化発達を遂げた。その様子を比較解剖学的, 分類学的, 系統学的の見地から正確詳細に記載してある。表題のとおり生殖器官に関する胞子のう, 胞子のう群, 包膜などについては触れていない。内容は一般論と各論よりなり, 前者には茎, 葉, 根の各部分それぞれに表皮, 中心柱, 生長点などあらゆる点について詳しく記述し, 中心柱説を論じている。後者にはプロソフィトン綱 (1 目 4 科), マツバラン綱 (1 目 1 科), ヒカゲノカズラ綱 (6 目 12 科), トクサ綱 (6 目 7 科), シダ綱—原始シダ亜綱 (4 目), シダ亜綱 (5 目 23 科) の 5 綱 23 目が分類別に各部分について記載されているが, シダ亜綱以外はほとんど化石である。全体で 459 個の図があって大変理解しやすい。巻末には 62 ページを占める文献目録が付いていて 1967 年までのものを収めてある。シダ植物および維管束植物を研究する人の必読の書である。

(伊藤 洋)